

2021年4月19日（月）

内閣総理大臣賞・「自然・暮らし部門」優秀賞受賞 第62回科学技術映像祭授与式が開催

4月16日（金）に第62回科学技術映像祭*表彰状授与式が東京都千代田区の科学技術館サイエンスホールで行われ、最高賞の内閣総理大臣賞を受賞した「HTB ノンフィクション たづ鳴きの里～タンチョウを呼ぶ農民たちの1500日～」を制作した沼田博光ディレクターにトロフィーと賞状が授与されました。また、自然・暮らし部者の部門優秀賞を受賞した「テレメンタリー2020 介護崩壊～救えなかったクラスター～」の制作を担当した阿久津友紀プロデューサーに賞状が授与されました。

沼田博光ディレクターは受賞スピーチで、「長沼町の人たちの純粋な熱意があってこそ、長期間続けられた取材だと感じています。5年間取材をして学んだのは、私たちのすぐ横にも生命（生き物）はたくさん住んでいて、少しでもその事実に関心を寄せてみるのが大事だということです。これからはタンチョウにまつわる物語を作り続けていきたいと思えます」と喜びを語りました。講評した小出重行審査委員長から、「人間と野生動物をしっかりと描いた秀作である。ユーモラスな視点も交えて描かれた心温まる作品だった。絶滅危惧種の保全活動を長い期間に渡って取材していて、対象をしっかりと追っている様子が印象的だった」と、高い評価を受けました。

また、自然・暮らし部門の部門優秀賞を受賞した HTB 制作テレメンタリー2020「介護崩壊～救えなかったクラスター～」の阿久津友紀プロデューサーと北村玲奈ディレクターは、「放置されてきた介護制度のひずみ、固定化された縦割り行政、自治体の壁が阻む医療支援体制など、数々の問題点が見えてきました。いまでも最前線で戦っておられる医療・介護従事者のみなさまに感謝するとともに、今後、この受賞によりさらに多くの方々に御覧いただくことで、浮き彫りになった様々な課題が解決に向かうことを切に祈ります」とコメントを寄せています。

科学技術映像祭*

優れた科学技術映像を選奨することで科学技術への関心を喚起するとともに、その普及と向上を図り、社会一般の科学技術教養の向上に資することを目的として1960年に開始された日本で最も権威のある科学技術の映像祭。「自然・暮らし部門」「研究・技術開発部門」「教育・教養部門」の3部門に応募された作品の中から各賞を選定。入選作品は、全国の科学館等で上映会が実施される。

※プレスリリースに関するお問い合わせ
HTB 編成部 山崎
TEL : 011-205-7666
メール:yuyamazaki@htb.co.jp

（発行元）社長室

